

帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業【竹田市】

現状と課題

- ・竹田市の小中学校には、一昨年2学期より他県から転入した姉妹がいる。韓国での生活が長かったため生活言語については「話す・聞く」ことはかろうじて可能であるが、特に今年度中学校入学の1年生徒（姉）は日本語の「読む・書く」ことについて困難を伴っており、特に学習言語の習得に大きな課題がある。
- ・市教育委員会が人材を確保・育成し、学校の要請に応じて人材を派遣するなど、システムづくりを行うことで、当該生徒の実態に応じた指導体制の構築を進める。

事業内容

「特別の教育課程」による日本語指導の実施と指導体制の構築

- 児童生徒の学習と言語習得の実態に応じた「特別の教育課程」を作成し、適切な日本語指導の確立を図る。
- 担任や担当教員だけでなく、全ての教職員が「特別の教育課程」について理解することにより、学校の指導体制を構築する。



連動

日本語指導者養成研修・連絡会等に参加
することにより指導力アップ

日本語指導員の派遣

- 日本語指導が必要な児童生徒が在籍する中学校に指導員を派遣し、児童生徒の能力に応じた指導を行う

児童生徒の日本語能力アップ
指導者の日本語指導力アップ



事業成果

- 日本語指導員と学校が連携しながら日本語指導を継続的に実施することにより、支援を必要とする児童生徒に効果的な指導や支援体制を構築することができた。
- 学習面で入学当初より対象児童の日本語の能力が著しく高まった。また転入前の学校では不登校傾向にあったが、関係機関と連携した支援をすることにより不登校傾向が解消し、意欲的な学校生活を送ることができるようになった。